

作業の効率化で 農業の未来を明るく



徳之島でスマート農業を取り入れた肉用牛生産を行う(株)永吉ファームの皆さん



首につける
センサー

首につけたセンサーによってミルクの給与量・回数などのデータも記録され、病気の早期発見にも役立っている



自動的に一定量のミルクを供給できるほ乳口ポット



母牛の飼料自給率100%を達成したことで利益率も向上



冬でもトウモロコシが育つため、台風の時期を避けて二期作が可能



今回の農家

肉用牛農家

取材協力

株式会社 永吉ファーム(徳之島町)
ながよし てるひこ
永吉輝彦さん

徳之島でスマート農業を取り入れながら、奄美群島最大規模である約400頭の生産牛を飼育。



スマート農業で 県内屈指の規模に成長

徳之島は、耕地面積が奄美群島の中で最も広く、平成以降は肉用牛の生産が盛んになっている地域です。

永吉ファームの永吉輝彦さんは、地元の徳之島で平成元年に就農し、わずか8頭だった肉用牛の飼育頭数を30年余りで約400頭にまで増やし、奄美群島最大の畜産農家に成長しました。50頭以下の農家が大半を占める徳之島で驚異的ともいえる規模に成長できたのは、就農時から積極的に先進技術を取り入れてきたおかげ。その有効性を実感したのは、平成6年に自ら開発に携わった肉用牛管理システムを導入

大切なのは若いうちに 大きな目標を持つこと

台風被害など、離島での農業にはデメリットが多いと思われがちですが、永吉さんは離島のメリットに目を向け、前向きに農業を続けてきました。「後継者不足が叫ばれる現在でも、徳之島では人手に困ることはありません。陸続きだと人は簡単に流れてしましますが、島の人は島外には出ていかないんです」と永吉さんは話します。

また、後を継ぐ予定の3人の子どもたちや従業員には、大きな目標を持つ大切さを伝えています。永吉さ

した時でした。種付・妊娠期間などがグラフなどで「見える化」され、より的確に牛を管理できるようになり、繁殖成績が飛躍的にアップしたのです。平成15年以降、子牛に自動的にほ乳できるほ乳口ポットや、牛にタグをつけることで行動を24時間分析し、分娩や疾病の兆候などをAIで予測できるシステムなどのスマート農業機器を導入。スタッフの負担が減り、作業効率が向上しました。

また、飼料輸送代がかさむという離島特有のデメリットを克服するべく、温暖な気候を生かしたトウモロコシの二期作にも着手。これにより、母牛の飼料は100%自給できるようになりました。

ん自身も農業を志した高校生の頃から飼育数50頭という目標を持ち、それを達成すると次は365頭と、目標を大きくしていったことが躍進に繋がったそうです。現在は1000頭を目標として挑戦を続けています。

変化を恐れず、時代に合った農業の形を模索し続けてきた永吉さんの仕事ぶりは、新たな農業のモデルケースとなり、島の雇用拡大にも繋がりました。「今は農地も安いし牛の価格も上昇している。農業の未来は明るいですよ」と話す永吉さんの言葉からは、夢へ向かってこれからも真っ直ぐ進んでいく力強さが感じられました。



2018年度「全国優良経営体表彰」の経営革新部門で農林水産省経営局長賞(2位)を受賞

お知らせ

農業を始めたい方におすすめ!
かごしま就農・就業相談会

- 開催日 1月18日(土) 午前10時~午後4時
- 場所 かごしま県民交流センター(2階大ホール) 鹿児島市山下町14-50
- 問い合わせ先 公益社団法人鹿児島県農業・農村振興会 TEL 099-213-7223 ※入場無料、服装自由、入退場自由